



学校だより

令和7年11月28日（金）

第866号

さいたま市立日進小学校

TEL：663-6942

イーハトーブ

校長 鈴木 晴雄

本校では、児童が図書の楽しさを味わい読書の幅を広げることを目的に、11月4日（火）から11月28日（金）を読書月間としました。具体的な取組としては、図書委員によるペープサート形式の読み聞かせ、図書委員と先生方のお薦めの本の紹介・掲示、図書委員が作成した葉をプレゼントする図書ビンゴ、本の福袋やクイズ、図書ボランティアによる読み聞かせなどが挙げられます。また、12月の5年生国語科の学習では、「宮沢賢治の作品を読んで、表現の効果を知り、読書の幅を広げよう」の授業を展開します。

宮沢賢治は、1896年岩手県花巻市に生まれ、『やまなし』『銀河鉄道の夜』『注文の多い料理店』などを執筆した詩人・童話作家です。宮沢賢治の作品の中に出てくる造語「イーハトーブ」。この言葉について、『イーハトーブ童話 注文の多い料理店』の宣伝用広告ちらしには、次のような説明があります。

「イーハトーブとは一つの地名である。（中略）これは、筆者の心象中に、この様な光景をもって実在したドリームランドとしての日本岩手県である。」

この言葉は、地震や津波など、幾多の自然災害と向き合ってきた宮沢賢治の故郷である岩手県をモチーフにしているのです。「イーハトーブ」とは、実際の風景から宮沢賢治が考えたドリームランドとしての岩手県です。そこには、宮沢賢治が愛する町、そして、宮沢賢治のことを誇りに思う素敵な町があります。

2011年3月11日、東北地方を中心に未曾有の被害を引き起こした東日本大震災。東北地方の人々は、絶望と無力感に打ちひしがれながらも、立ち上がることを忘れませんでした。震災後、「雨ニモマケズ」は、ネット上で多くのアクセスがあり、世界各地で朗読され、語り継がれました。

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ

慾（よく）ハナク

決シテ瞋（いか）ラズ

イツモシヅカニワラッテユル

（「雨ニモマケズ」宮沢賢治 一部抜粋）

日進小の子どもたちにとっての「イーハトーブ」はどこですか、何ですか。「私たちの『イーハトーブ』は日進地区。そして、日進小学校です。」と笑顔で伝え合う子どもたちの姿を想像しながら、今日も笑顔で挨拶を交わします。

「子どもたちのことを愛し誇りに思う地域」で育った子どもたちが、「愛し誇りに思う地域」を支え励ます時がいつか来るでしょう。その日が来ることを信じて、保護者・地域の皆様・学校運営協議会委員の皆様と連携協力して、教育活動を推進してまいります。

師走に入り、松の内ごろまでは、慌ただしい日々が続くかと思いますが、穏やかに落ち着いた日々を過ごされるようお祈り申し上げます。1月8日（木）に笑顔溢れる子どもたちと会えることを楽しみにしています。